



☆ 講演会 ☆

「生前一樽の酒」 (適正申告を考える)

講師：中野税務署長 大久保嘉一様



講師の大久保署長

令和2年1月9日、中野サンプラザにおいて「講演会」が行なわれました。

講師に、中野税務署長 大久保嘉一様を招聘して「生前一樽の酒」と題して講演していただきました。

本題に入る前に、「バイオリニストの高嶋ちさ子さんの好きな3つの言葉」「森昌子さんが大事にしている言葉」について話されました。また、「国税局の管轄区域図」「機構」「組織図」「税務署の組織図」について話されました。

【Part 1】Ⅰ 適正申告を考える

脱税は、どういう犯罪なのか？

加害者は、当然脱税者であるが、被害者は？という事で「被害者=全ての国民」とであると話されました。

令和元年度予算の財政の現状（歳入と歳出）について話されました。

次に、我が国の財政は、歳出が歳入（税収）を上回る状況が続いている。その差は、借金である公債金（建設公債・特例公債）によって賄われていること。

公債残高は、累積の一途をたどり、令和元年度末の普通国債残高は、897兆円に上ると見込まれている。特例公債の発行から脱却することのできた平成2年度末以降の普通国債残高の累増は、歳出では高齢化の進行等に伴う社会保障関係費の増加や地方交付税交付金等の増加が主要因となっている。歳入面では、過去の景気の悪化や減税による税収の落ち込みが主要因となっている。

「社会保障関係費」

(1) 社会保障関係費の増加

(1990年度から、22.4兆円増加)

少子高齢化は何をもたらすか？ということについて、高齢化（率）の進展により、社会保障給付費は、今後も急激な増加が予想され、その費用等の負担を将来世代に付回しという現状を

改善するため、「社会保障と税の一体改革」を行なっている。目的やどのようなことをやっているかも話された。

「査察制度の目的」

○大口・悪質な脱税者を検察官に告発して刑事責任を追及する

○一罰百戒敵効果を通じて納税道義の高揚を図り、申告納税制度を守る“最後の砦”としての役割を果たす

「脱税に対する税務調査」

“脱税” 査察調査の事務手順、また、「査察制度の概要」についても事例を交えながら話されました。

「生前一樽の酒」

最後に、中唐の詩人・白居易の詩から…

『勸酒』 身後堆金拄北斗不如生前一樽酒

意味：（天地日月は長久であるが、人の命は果敢ないものだ、死後に天上の星を拄えるほど金寶を積まんよりは、生前の一樽の酒の方が遙かに勝っている）になぞらえて【生前、脱税をして悪銭をため込むよりは、正しく納税し、社会に貢献した方が人の理にかなっている】と結ばれました。

【Part 2】Ⅱ

東京と縁のある話（うふあがり島）

素敵な写真を通し、大変に内容の濃い（大東島）のお話も良かったです。

長時間、本当に有難うございました。

